

## 令和4年度 藍野大学短期大学部 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

## 学科:第一看護学科

区分	科目名	教員名	専任・兼任・兼任	担当コマ数	担当時間数	科目時間数	単位	配当年次	備考
専門分野Ⅰ	看護学概論	上田 愛子	専任	15	30	30	1	1	
専門分野Ⅱ	成人看護学概論	渡辺 史子	専任	15	30	30	1	1	
	成人看護学方法論Ⅱ	田中 裕樹	専任	15	30	30	1	1	
	老年看護学概論	竹田 秀信	専任	15	30	30	1	1	
	精神看護学概論	大西 康之	専任	15	30	30	1	1	
	精神看護学方法論	中野 幸恵	専任	15	30	30	2	1	
合計単位数							7		
省令で定める基準単位数							7		

## 学科:第二看護学科

区分	科目名	教員名	専任・兼任・兼任	担当コマ数	担当時間数	科目時間数	単位	配当年次	備考
専門分野	看護学概論	河合 まゆみ	専任	15	30	30	1	1	新カリキュラム
	基礎看護学方法論Ⅱ	松本 明子	専任	23	45	45	2	1	新カリキュラム
	基礎看護学方法論Ⅴ	磯田 容子	専任	15	30	30	1	1	新カリキュラム
	地域・在宅看護概論	川口 ちづる	専任	23	45	45	2	1	新カリキュラム
	成人看護学概論	森 美由紀	専任	15	30	30	1	1	新カリキュラム
	精神看護学概論	谷川 英二	専任	15	30	30	1	1	新カリキュラム
	老年看護学方法論Ⅱ	播木 清美	専任	15	30	30	1	2	旧カリキュラム
	母性看護学方法論Ⅰ	中村 乃利子	専任	23	45	45	2	2	旧カリキュラム
	母性看護学方法論Ⅱ	梅川 弘子	専任	15	30	30	1	2	旧カリキュラム
	小児看護学方法論Ⅰ	橋 依子	専任	16	32	45	2	2	旧カリキュラム
合計単位数							14		
省令で定める基準単位数							10		

## 学科:専攻科(地域看護学専攻)

区分	科目名	教員名	専任・兼任・兼任	担当コマ数	担当時間数	科目時間数	単位	配当年次	備考
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論Ⅰ	丸山 睦	専任	8	15	15	1	1	
		菊川 縫子	兼任	2	4				
	公衆衛生看護学概論Ⅱ	野崎 志津	専任	8	15	15	1	1	
	成人保健指導	山下 裕子	専任	8	15	15	1	1	
	健康教育論Ⅱ	梶本 和美	兼任	8	15	15	1	1	
合計単位数							4		
省令で定める基準単位数							4		

## シラバス参照

講義名	看護学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	1	時間	30.00
履修要件	特になし		
配当年次・時期	1年次・前期		
必修/選択	必修		
担当教員			
職種	氏名	所属	
准教授	◎ 上田 愛子	第一看護学科	
授業の概要 (150文字程度)	看護の基礎として歴史的な変遷、看護の概念、看護の構造や機能、役割について体系的に学び、看護に関する基礎的知識及び態度を習得する。患者を取り巻く医療チームにおける看護の役割と連携について学習し、看護職としての自己の看護観を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の概念及び、目的・目標・機能を理解できる。</li> <li>2. 社会・文化的背景と関連付けて看護の変遷を理解し、将来についての展望を持つことができる。</li> <li>3. 現代における医療・看護の役割、活動について理解できる。</li> <li>4. 看護の基盤となる思考過程の意味するところを理解できる。</li> <li>5. 看護実践に重要なクリティカルシンキング態度及びクリティカルシンキング能力について理解できる。</li> </ol>		
学位授与方針との関連	看護師および保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。 チーム医療の一員として同僚や他職種の人と協調性を保ちつつ積極的に関わることができる。		
授業計画表			
回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	上田 愛子	初回ガイダンス 看護の本質	授業の進め方と授業に臨む姿勢について、「看護観」について 看護の基本となる定義と概念、職業としての看護、学問としての看護（講義）
第2回	上田 愛子	看護学の主要概念	患者中心の看護、「患者中心の医療」7つの要素 看護学の主要概念、看護知識の発展（講義）
第3回	上田 愛子	看護の歴史	看護の変遷（看護の過去から現在まで）（講義）
第4回	上田 愛子	看護理論家における看護の定義	ナイチンゲール、ヘンダーソン、オレム、トラベルビー、ロイ（講義）
第5回	上田 愛子	看護の対象	全体としての人間、成長・発達する存在、ニーズをもつ存在、生活を営む存在、適応する存在、社会・文化的存在、ライフサイクルと発達課題（講義）
第6回	上田 愛子	健康と生活	健康とは何か、健康の諸相、健康生活とQOL、生活習慣とセルフケア、健康への影響要因（社会的法的要因と健康格差）（講義）
第7回	上田 愛子	対象との関係の形成	信頼関係、援助関係、協働関係（講義）
第8回	上田 愛子	看護における連携と協働	看護職間の連携と協働、多職種間の連携と協働、チームでの活動（講義）
第9回	上田 愛子	看護における感染管理	感染症の歴史、感染予防対策（スタンダードプリューション）、新型コロナウイルス感染症等に対する看護の視点
第10回	上田 愛子	看護における感染管理	感染症の歴史、感染予防対策（スタンダードプリューション）、新型コロナウイルス感染症等に対する看護の視点
第11回	上田 愛子	看護における倫理 看護の倫理	基本的人権、世界人権宣言、個人の尊厳、医療の倫理原則、看護とインフォームドコンセント、専門職としての倫理（講義） 専門職としての倫理、医療をめぐる倫理原則とケアの倫理（講義）
第12回	上田 愛子	看護における学習支援	看護における学習支援とは、事例をもとに集団を対象に健康教育を行う（講義）
第13回	上田 愛子	看護情報管理 基盤となる思考過程	医療情報と看護情報 看護における情報管理 看護記録・報告と共有 EBN（講義）
第14回	上田 愛子	クリティカルシンキング態度とクリティカルシンキング能力の育成	なぜ、看護実践にクリティカルシンキングが重要なのかを考える 「批判」と「批難」の違いについて考える 講義>ディベート>発表>まとめ
第15回	上田 愛子	医療安全 基盤となる思考過程	事故発生のメカニズムとヒューマンエラーを防ぐためのクリティカルシンキング（講義）
授業時間外の学習	看護学概論の授業形態の基本は、反転学習です。前もって指示されたレポート課題を提出して授業に臨んでください。		
目安時間	15時間程度		
教科書	「新体系看護学全書 基礎看護学① 看護学概論」 メヂカルフレンド社		
参考文献等	「看護覚え書」 フローレンスナイチンゲール 「患者中心の看護」 アブデラ 看護者の基本的責務2022年版 日本看護協会出版会		
成績評価の方法	試験（50%） レポート（50%）		
授業に関する実務経験	看護師として病院に勤務した経験及び、看護管理者として社会福祉法人で勤務した経験を基に、「看護の基礎」について理解を深められるように教授する。		
オフィスアワー	講義の日の放課後		

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	成人看護学概論		
講義開講時期	通年	講義区分	講義
基準単位数	1	時間	30.00
履修要件	特になし		
配当年次・時期	1年次・通年		
必修/選択	必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
助教	◎ 渡辺 史子	第一看護学科

授業の概要 (150文字程度)	成人各期の発達段階と発達課題に関連させて、その特徴を身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな側面から総合的に理解する方法を学ぶ。成人の健康状態が、生活習慣や様々な環境によって正常から異常へと移行していく要因を理解したうえで、それを予防し健康を維持していくための方策について学ぶ。さらに、成人期の健康障害が個人のみならず家族や社会生活に及ぼす影響について理解し、その支援方法について学ぶ。治療・医療システムの様々な状況や患者の健康レベルに対応するための理論や具体的な看護援助について学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成人期の発達段階・発達課題の特徴を理解し成人を取り巻く環境と生活からみた健康問題について説明できる。</li> <li>・成人の疾病予防ならびに最適な健康を維持・促進するための看護援助が理解できる。</li> <li>・成人の健康行動の捉え方を理解し行動変容を促進するアプローチについて説明できる。</li> <li>・成人の危機状況における心理的支援や健康生活の急激な破綻から回復を促進する看護援助の概要を説明できる。</li> <li>・健康レベルに応じた看護理論を理解したうえで対象の状態に応じた看護援助の方法を説明できる。</li> </ul>
学位授与方針との関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>①看護師として十分な専門知識と技能を身につけている。</li> <li>②社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。</li> <li>③修得した知見を他者に対して論理的に説明できる。</li> <li>④医療・保健・福祉における社会資源の知識を持ち、活用方法を考えることで支援システムについて知ることができる。</li> </ul>

授業計画表			
回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	渡辺 史子	成人期の成長・発達の特徴①	青年期の発達段階・発達課題の特徴（身体・心理・社会的発達）・時間的展望と異世代との相互作用（講義）
第2回	渡辺 史子	成人期の成長・発達の特徴②	壮年期・中年期・向老期の発達段階・発達課題の特徴（身体・心理・社会的発達）成人期の感覚機能の変化（講義）
第3回	渡辺 史子	成人期における・健康問題・身体機能の特徴	生涯発達論や他者との相互性、また生活習慣や社会的役割に関連した健康問題について（講義・演習）
第4回	渡辺 史子	成人を取り巻く環境と生活からとらえた健康問題	成人の健康を生活環境や社会状況との関係の中でとらえ健康を守る保健・医療・福祉システムの概要と動向を理解する（講義・演習）
第5回	渡辺 史子	成人への看護アプローチの基本	アンドロゴジー・エンパワメント・行動変容を促進するアプローチについて学習し個人のみならず家族や社会における様々な集団を対象とした看護援助について理解する（講義・演習）
第6回	渡辺 史子	看護におけるマネジメント	看護を提供する対象者の要請やニーズに組織的に対応できるようなマネージメントの方法ケースマネジメント・クリニカルパス・パリアンス・リスクマネジメント（講義・演習）
第7回	渡辺 史子	ヘルスプロモーションと看護	地域社会における成人のヘルスプロモーションを促進する看護ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ（講義・演習）
第8回	渡辺 史子	健康をおびやかす要因と看護	ストレスに関連する健康障害 ストレス・マネジメントとコーピング（講義・演習）
第9回	渡辺 史子	生活行動がもたらす健康問題とその予防	就労・労働形態がもたらす健康問題と職場におけるヘルスプロモーションを促進する援助（講義・演習）
第10回	渡辺 史子	健康生活の急激な破綻から回復を支援する看護	急性期にある人と、その家族への看護援助 危機的な状況における心理的支援 がん薬物療法・放射線治療とその看護援助（講義・演習）
第11回	渡辺 史子	慢性病とともに生きる人を支える看護	成人の自己概念へ配慮した自己効力感を高める教育的アプローチ セルフマネジメントへの支援方法
第12回	渡辺 史子	障害がある人の生活とリハビリテーション	国際生活機能分類（ICF）・障害がある人の障害の認識課程 急性期のリハビリテーション看護と回復期のリハビリテーション看護の目的と特徴（講義・演習）
第13回	渡辺 史子	人生の最後のときを支える看護	緩和ケア・全人的苦痛（トータルペイン）・スピリチュアルペイン（講義・演習）
第14回	渡辺 史子	新たな治療法、先端医療と看護	新たな治療法の選択における問題と意思決定を支える看護・（シェアード・ディメンション・メイキング（SDM））について（講義・演習）
第15回	渡辺 史子	まとめ	小テスト・グループワーク・発表（演習）

授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は教科書を中心に進め、必要に応じて別途資料を授業前に配布する。</li> <li>・事前レポート課題の内容は授業開始前に、そのつど発表または掲示する。</li> <li>・レポート課題は授業中に発表できるようにまとめておくこと。</li> <li>・授業開始までに教科書内の重要用語を調べ自己学習しておくこと。</li> <li>・授業開始時には、前回の授業内容の小テストを行うことがある。</li> <li>・授業終了後は時間外学習として教科書、配布資料をもとに授業ノートをまとめておき、実習で活用できるように保管しておくこと。</li> <li>・レポート課題については、提出期限を厳守し計画的に取り組むこと。</li> <li>・学習した内容から、自己の考えを明確にしたうえで発表できるよう準備しておくこと。</li> </ul>
目安時間	約60分～90分
教科書	「系統看護学講座 専門 成人看護学1 成人看護学総論」医学書院
参考文献等	教員により参考文献は適宜紹介し、作成資料および教科書に基づき授業を展開する。
成績評価の方法	（レポート・授業態度・発表内容）20%、（終講試験）80%、授業の進捗状況によって内容及び方法は変更することがある。
授業に関する実務経験	看護師として救急医療及び慢性期医療、終末期医療に携わった経験、ならびに予防医療・産業保健ネットワーク活動による労働災害医療に携わった経験などを基に、最新の情報やデータに基づき成人看護学における基礎となる考え方や理論、援助方法論について理解が深まるよう指導する。
オフィスアワー	金曜日の16：10～16：40（但し外部出張時など変更となる場合がある）

[ウインドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	成人看護学方法論Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義・演習・実習
基準単位数	1	時間	30.00
履修要件	特になし		
配当年次・時期	1年次・後期		
必修/選択	必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
講師	◎ 田中 裕樹	第一看護学科

授業の概要(150文字程度)	各機能障害のある患者の特徴および病期や障害に応じた看護について必要な知識を学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>各機能障害のある患者の特徴および病期や障害に応じた看護検査や治療における侵襲と生体反応に伴う身体・心理・生活・社会的側面に及ぼす影響についてアセスメント方法を理解する。</li> <li>事例を通して、各機能障害における患者の特徴および病期から必要な看護ケアを考え、看護展開の方法を理解する。</li> </ul>
学位授与方針との関連	看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。

授業計画表			
回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	田中 裕樹	授業ガイダンス・各機能障害のある患者の特徴および病期や障害に応じた看護・呼吸機能障害ある患者の看護	シラバスの説明。各機能障害のある患者の特徴および病期や障害に応じた看護について(講義) 呼吸機能障害ある患者の看護について①(講義)
第2回	田中 裕樹	呼吸機能障害ある患者の看護	呼吸機能障害ある患者の看護について②(講義)
第3回	田中 裕樹	循環機能障害ある患者の看護	循環機能障害ある患者の看護について(講義)
第4回	田中 裕樹	消化・吸収機能障害のある患者の看護	消化・吸収機能障害のある患者の看護について(講義)
第5回	田中 裕樹	栄養代謝機能障害のある患者の看護	栄養代謝機能障害のある患者の看護について(講義)
第6回	田中 裕樹	内部環境調節機能障害のある患者の看護	内部環境調節機能障害のある患者の看護について(講義)
第7回	田中 裕樹	内分泌機能障害のある患者の看護	内分泌機能障害のある患者の看護について(講義)
第8回	田中 裕樹	身体防御機能の障害のある患者の看護	身体防御機能の障害のある患者の看護について(講義)
第9回	田中 裕樹	脳・神経機能障害のある患者の看護	脳・神経機能障害のある患者の看護について(講義)
第10回	田中 裕樹	感覚機能障害のある患者の看護	感覚機能障害のある患者の看護について(講義)
第11回	田中 裕樹	運動機能障害のある患者の看護	運動機能障害のある患者の看護について(講義)
第12回	田中 裕樹	排尿機能障害のある患者の看護	排尿機能障害のある患者の看護について(講義)
第13回	田中 裕樹	性・生殖・乳腺機能障害のある患者の看護	性・生殖・乳腺機能障害のある患者の看護について(講義)
第14回	田中 裕樹	機能障害のある患者事例における看護過程演習①	機能障害のある患者事例における看護過程の演習
第15回	田中 裕樹	機能障害のある患者事例における看護過程演習②	機能障害のある患者事例における看護過程の演習

授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎授業開始までに時間外学習として30分間(計15回)、テキストを既読し授業に臨むようにする。その際学習目標の確認及び、テキスト内の重要な用語等は事前に学習を行う。</li> <li>授業終了後は、時間外学習としてテキスト、参考文献、配布資料や授業ノートをともに自宅で復習30分間(計15回)を行なう。・予習、復習は習慣づけるようにし、学習内容に理解不足がある場合、主体的・積極的に担当教員に質問をする。</li> <li>レポート課題については、提出期限を厳守し計画的に提出する。</li> </ul>
目安時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎授業開始までに時間外学習として30分間(計15回)</li> <li>授業終了後は復習30分間(計15回)</li> </ul>
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学2 呼吸器」 医学書院</li> <li>「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学3 循環器」 医学書院</li> <li>「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学4 血液・造血器」 医学書院</li> <li>「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学5 消化器」 医学書院</li> <li>「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学6 内分泌・代謝」 医学書院</li> <li>「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学7 脳・神経」 医学書院</li> <li>「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学8 腎・泌尿器」 医学書院</li> <li>「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学9 女性生殖器」 医学書院</li> <li>「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学10 運動器」 医学書院</li> <li>「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学11 アレルギー-膠原病 感染症」 医学書院</li> <li>「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学13 眼」 医学書院</li> <li>「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学14 耳鼻咽喉」 医学書院</li> </ul>
参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> <li>「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学12 皮膚」 医学書院</li> <li>「系統看護学講座 別巻 臨床科学各論」 医学書院</li> <li>「系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護」 医学書院</li> <li>参考文献は適宜紹介し、作成資料に基づき授業を展開する。</li> </ul>
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期試験(筆記)(90%) 演習参加後の提出物(10%)で評価する。</li> <li>授業内容・展開については変更する場合がある。</li> </ul>
授業に関する実務経験	看護師として、病院で勤務していた経験を基に、教授する。
オフィスアワー	原則水曜日は16時から17時、金曜日は16時から17時とする。ただし、都合により変更がある。

[ウインドウを閉じる](#)

## シラバス参照

講義名	老年看護学概論		
講義開講時期	通年	講義区分	講義
基準単位数	1	時間	30.00
履修要件	特になし		
配当年次・時期	1年次・通年		
必修/選択	必修		

## 担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 竹田 秀信	第一看護学科

授業の概要 (150文字程度)	高齢者について理解するための背景や高齢者における身体的・心理的・社会的特徴を理解し、老年看護の基本となる考え方や高齢者を取り巻く保健医療福祉制度、高齢者の健康増進(ヘルスプロモーション)、また高齢者を支える看護について学ぶ。
到達目標	1. 加齢に伴う高齢者の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、高齢者に対しての基本的な看護について理解する。 2. 高齢者の意思決定を尊重するための老年看護の基本的概念・役について理解する。 3. 高齢者を取り巻く我が国の社会情勢および高齢者を支えるケアシステムについて理解する。
学位授与方針との関連	看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。

## 授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	竹田 秀信	科目ガイダンス 加齢とは	講義ガイダンス 老年看護学における高齢者の捉え方、加齢・老化の概念(講義)
第2回	竹田 秀信	加齢に伴う身体的変化と日常生活への影響①	加齢による身体変化とアセスメント(皮膚・感覚器・循環器・呼吸器)(講義)
第3回	竹田 秀信	加齢に伴う身体的変化と日常生活への影響②	加齢による身体変化とアセスメント(消化器・内分泌・泌尿器系・運動器)(講義)
第4回	竹田 秀信	加齢に伴う心理的側面と日常生活への影響	高齢者の心理的側面(老いところ)、高齢期の社会関係(講義)
第5回	竹田 秀信	高齢者の発達段階・発達課題	生涯発達理論:ハヴィガースト、エリクソン、ベック(講義)
第6回	竹田 秀信	超高齢社会の現状(統計調査より)	高齢者の暮らし、健康状況、死亡(講義)
第7回	竹田 秀信	高齢者を支える保健医療福祉制度①	小テスト / 制度の変遷、成年後見制度、日常生活自立支援事業(講義)
第8回	竹田 秀信	高齢者を支える保健医療福祉制度②	介護保険制度、社会資源と多職種連携(講義)
第9回	竹田 秀信	高齢者看護の役割	老年看護の発展となりたち、老年看護の役割と特徴(エンパワメント、ICFモデル)(講義)
第10回	竹田 秀信	高齢者を理解するための理論・概念	サクセスフルエイジング、離脱理論、SOC理論、コンフォート理論、ストレングスモデル(講義)
第11回	竹田 秀信	高齢者のQOLと権利擁護	高齢者に対するスティグマ、エイジズム、高齢者虐待(講義)
第12回	竹田 秀信	高齢者と環境	高齢者の住まい、地域包括ケア、リロケーション(講義)
第13回	竹田 秀信	高齢者の安全とリスクマネジメント	高齢者のリスク要因、高齢者の事故と対応、高齢者と災害(講義)
第14回	竹田 秀信	高齢者を介護する家族	介護者の特徴、家族のアセスメント、介護者への援助(講義)
第15回	竹田 秀信	高齢者の健康まとめ	ヘルスプロモーション、介護予防、まとめ(講義)

授業時間外の学習	予習は毎回1時間を目安とし、該当科目のテキストを熟読の上、疑問明らかにし講義に臨むこと 復習は講義資料を行って計画的に行うこと。
目安時間	合計15時間程度
教科書	「系統看護学講座 専門分野2 老年看護学」医学書院 「系統看護学講座 専門分野2 老年看護 病態・疾患論」医学書院
参考文献等	「国民衛生の動向」厚生統計協会 老年看護学①老年看護学概論/老年保健 メヂカルフレンド社 「認知症の人の看護」医歯薬出版、他は講義の中で適宜紹介する。 医学書院 eナーストレーナー
成績評価の方法	中間試験は第1回から第6回までの授業内容から出題し、採点後に返却する。終講試験は返却しない。 終講試験 60% 小テスト20% レポート20%
授業に関する実務経験	看護師として病院・施設で勤務していた経験を基に、高齢者理解や高齢者に対する倫理的配慮について理解が深まるよう指導する。
オフィスアワー	水曜日・金曜日 16:10~17:15

[ウインドウを閉じる](#)



## シラバス参照

講義名	精神看護学概論		
講義開講時期	通年	講義区分	講義
基準単位数	1	時間	30.00
履修要件	特になし		
配当年次・時期	1年次・通年		
必修/選択	必修		

## 担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 大西 康之	第一看護学科

授業の概要(150文字程度)	精神看護学に関する諸モデルと精神の健康を理解するための諸概念、精神障害と治療及び看護、精神看護の場など精神看護学の基盤について学習する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神の健康に関する普及啓発を理解し、偏見、差別、スティグマを理解する。</li> <li>2. 精神の健康とマネジメントについて学び精神保健福祉法を説明することができる。</li> <li>3. レジリエンスの考えを説明することができる。</li> <li>4. 思考障害とはどのような障害か説明することができる。</li> </ol>
学位授与方針との関連	看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。

## 授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	大西 康之	現代社会の変化と精神の健康：心の病気	もえつき症候群・いじめについて（講義）
第2回	大西 康之	精神障害者の家族支援：精神障害者の援助	精神障害者地域支援について（講義）
第3回	大西 康之	心の健康と不健康：自我の機能	不安に対する援助について（講義）
第4回	大西 康之	精神力動理論（フロイト）	エス・自我・超自我について（講義）
第5回	大西 康之	ライフサイクルとアイデンティティ	エリクソンの発達理論について（講義）
第6回	大西 康之	防衛機制危機理論とストレス	自我の防衛機種の種類について（講義）
第7回	大西 康之	救急医療と精神保健福祉の関係	ICU症候群について（講義）
第8回	大西 康之	地域精神保健福祉活動について	病院精神医学から地域へについて（講義）
第9回	大西 康之	危機への対処（コーピング）	PTSDについて（講義）
第10回	大西 康之	逸脱とスティグマ	社会的烙印について（講義）
第11回	大西 康之	精神症状と状態像	統合失調症について（講義）
第12回	大西 康之	精神科における治療	向精神病業の歴史について（講義）
第13回	大西 康之	精神障害者の処遇	成年後見制度について（講義）
第14回	大西 康之	精神障害者の法制度	行動制限について（講義）
第15回	大西 康之	精神保健福祉法による入院形態	開放処遇について（講義）

授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業開始までに予習として、テキストを既読し授業に臨むようにする。</li> <li>・講義終了後は配布した資料や授業ノートの整理をする。</li> <li>・予習、復習を習慣づけるようにし、学習内容を深める。</li> </ul>
目安時間	2時間程度
教科書	岩崎 弥生「精神看護学① 精神看護学概論/精神保健」メヂカルフレンド社、2022。
参考文献等	講義の中で適宜参考書図書文献を紹介する。
成績評価の方法	定期試験100%で評価する。 国家試験に向けて再講義をする。 定期試験は採点后、答案を返却しない。
授業に関する実務経験	看護師として病院で勤務していた経験を基に、精神看護学の根拠を抑え倫理的配慮についても理解が深まるように指導する。
オフィスアワー	月曜日～金曜日 16:30～17:00

[ウィンドウを閉じる](#)

シラバス参照

講義名	精神看護学方法論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	2	時間	30.00
履修要件	特になし		
配当年次・時期	1年次・後期		
必修/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 中野 幸恵	第一看護学科

授業の概要 (150文字程度)	精神医療を取り巻く状況の急速な変化を理解し、入院や地域に関わらず、精神障害を持つ人や、家族の援助について学ぶ。そして、すべてのライフサイクルにある人を対象に、こころの健康を成長発達・社会適応の側面から捉え、心の健康を保持、増進、障害の予防及び精神障害をきたした個人とその家族を理解し、人権を尊重した看護の実践を学ぶ。
到達目標	1. 精神医療を取り巻く状況の急速な変化を理解し、現代の医療について考えることができる。 2. すべてのライフサイクルにある人を対象とし、こころの健康を成長発達、社会適応の側面から理解できる。 3. こころの健康を保持、増進、障害の予防及び精神障害をきたした対象とその家族を理解できる。
学位授与方針との関連	看護師として十分な専門知識と技能を身につけている。

授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	中野 幸恵	授業ガイダンス 人間関係について ①自分を知ること	授業内容のガイダンス ケアの中心が感情であること、その感情を手がかりにして、自分を知ることが重要であることを事例を通じて学ぶ。 (講義)
第2回	中野 幸恵	人間関係について ②相手を知ること	相手のことを知り、理解すること 患者へのかかわり方、精神障害をもつ人へのケアの基本的な方 (講義)
第3回	中野 幸恵	安全管理/安全を守る	患者の人権、リスクマネジメント、緊急事態の対処 (講義)
第4回	中野 幸恵	身体と心	心の痛みがどのようにして身体で表現されるのか (講義)
第5回	中野 幸恵	精神科における合併症/精神科における身体ケアの実際	抗精神病薬の副作用 身体合併症 (講義)
第6回	中野 幸恵	精神障害者を支える医療従事者	他職種連携について (講義)
第7回	中野 幸恵	心的外傷について/災害時の看護	心的外傷について/災害時の看護 心的外傷・愛着形成・エンパワメント・災害時の看護 (講義)
第8回	中野 幸恵	セルフケア理論について	セルフケア理論を学び9、10の授業内で実際に演習を行う。(講義)
第9回	中野 幸恵	演習：看護過程の展開	演習：看護過程の展開 情報収集～関連図 (演習)
第10回	中野 幸恵	演習：看護過程の展開	看護計画立案 (演習)
第11回	中野 幸恵	地域で暮らすために	当事者、援助者が心得ておくこと (講義)
第12回	中野 幸恵	地域での取り組み	地域での取り組み 社会制度とその基盤となる考え方 (講義)
第13回	中野 幸恵	リエゾン精神看護	一般診療科において資料を受けている人が陥りやすい精神保健上の問題 リエゾン看護師の役割 (講義)
第14回	中野 幸恵	ストレスマネジメント	人をケアする仕事の特性 (講義)
第15回	中野 幸恵	レジリエンスを高める まとめ	看護者自身のメンタルヘルス上の問題への対処 (講義)

授業時間外の学習	・各回の授業内容について予習・復習し理解すること。 ・1回、2回目終了時にレポート課題を課すので作成し提出すること。 ・9回、10回目終了時授業で用いた事例についての課題を提出すること。
目安時間	15時間を目安とする。
教科書	「精神看護学②精神障害をもつ人の看護」メヂカルフレンド社 「看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術」メヂカルフレンド社
参考文献等	「ナーシング・グラフィカ 精神看護学2 精神障害と看護の実際」メディカ出版 「系統看護学講座 別巻 精神保健福祉」医学書院 「系統看護学講座 専門分野2 精神看護学2 精神看護の展開」医学書院
成績評価の方法	学科試験90%、レポート10%
授業に関する実務経験	看護師として病院で勤務していた経験を基に、臨床で実施される看護技術の根拠をおさえ、倫理的配慮についても理解が深まるよう指導する。
オフィスアワー	月～金 16時10分以降

[ウインドウを閉じる](#)

## シラバス参照

講義名	看護学概論		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	1	時間	30.00
履修要件	特になし【R4新カリキュラム】2022年度入学生16期生から		
配当年次・時期	1年次・前期		
必修/選択	必修		

## 担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 河合 まゆみ	第二看護学科

授業の概要(150文字程度)	看護の基本的概念について学ぶと共に、看護の歴史的な変遷や社会における看護の役割と機能について理解を深める。また、看護の実践を支える理論などの学習を通し、自らの看護観を構築するための手がかりとする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の歴史的な変遷について理解できる。</li> <li>2. 看護論の学習をとおして、看護の本質について探究することができる。</li> <li>3. 看護の対象である人間を統合的にみることの必要性について理解できる。</li> <li>4. 看護実践の成り立ちと看護活動の概要について理解できる。</li> <li>5. 保健・医療・福祉の中での看護の役割と他職種との連携・協働の必要性が理解できる。</li> <li>6. 専門職者としての責任が理解でき、今後の看護のあり方について考察できる。</li> </ol>
学位授与方針との関連	看護師として十分な専門知識と技能を身につけている。 社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。 医療・保健・福祉における社会資源の知識を持ち、活用方法を考えることで支援システムについて知ることができる。

## 授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	河合 まゆみ	ガイダンス 看護とは何か	科目ガイダンス(看護学概論の位置づけ) 看護の特性、看護の定義、看護の役割と機能 (講義)
第2回	河合 まゆみ	看護の歴史	古代から中世における看護(講義)
第3回	河合 まゆみ	看護の歴史	近代から現代における看護(講義)
第4回	河合 まゆみ	看護理論家による看護の定義	理論家による看護のとらえ方(講義)
第5回	河合 まゆみ	看護理論家による看護の定義	理論家による看護のとらえ方(講義)
第6回	河合 まゆみ	看護の基本的概念	看護における人間・健康・環境の理解(講義)
第7回	河合 まゆみ	人間の心理・社会的理解	自己と他者、ストレス、コーピング、 スピリチュアリティ(講義)
第8回	河合 まゆみ	看護の倫理	倫理とは、看護倫理とは、倫理原則(講義)
第9回	河合 まゆみ	看護の倫理	倫理に関する事例を用いてグループワーク(演習)
第10回	河合 まゆみ	看護の法的責任	看護実践に関わる法、現代医療と法(講義)
第11回	河合 まゆみ	看護の展開	クリティカルシンキング、看護過程、看護情報管理 (講義)
第12回	河合 まゆみ	保健・医療・福祉	チーム医療、保健・医療・福祉における看護、 他職種連携・協働と看護師の役割 (講義)
第13回	河合 まゆみ	専門職としての看護	看護教育の歴史的変遷、看護の専門性 (講義)

第14回	河合 まゆみ	医療安全	医療安全の必要性、医療安全への取り組み、医療安全教育（講義）
第15回	河合 まゆみ	看護・看護学の展望 まとめ	看護・看護学の展望と課題 まとめ（講義）
授業時間外の学習	各授業の終了後には、復習を行うこと。 第3回終了後には、「看護の歴史から学んだことをもとに今後の看護がどうあるべきか」についてのレポートを課す。 第6回開始前には、「病人にとって理想的な療養環境」についてのレポートを課す。		
目安時間	各回30分程度		
教科書	看護学テキスト 看護学原論 看護の本質的理解と創造性を育むために[改訂第3版]高橋照子（南江堂） 看護学テキスト 看護学理論 看護理論21の理解と実践絵の応用 [改訂第3版]筒井真優美（南江堂）		
参考文献等	フローレンス・ナイチンゲール著、湯楨ます・薄井坦子他訳『看護覚書～看護であること看護でないこと』現代社 ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯楨ます・小玉香津子訳『看護の基本となるもの』日本看護協会出版会 講義の際に適宜紹介する。		
評価の方法	定期試験（90％）課題レポート（10％） 試験結果掲示後1週間のみ、希望者を対象に答案用紙の開示を行う。		
授業に関する実務経験	臨床経験、看護専門学校、看護短大・大学などの教育に関わった経験をもとに授業を展開する。		
オフィスアワー	水曜日 12:20～12:50		

[ウインドウを閉じる](#)

## シラバス参照

講義名	基礎看護学方法論Ⅱ		
講義開講時期	前期	講義区分	講義・演習・実習
基準単位数	2	時間	45.00
履修要件	特になし【R4新カリキュラム】2022年度入学生16期生から		
配当年次・時期	1年次・前期		
必修/選択	必修		

## 担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 松本 明子	第二看護学科

授業の概要(150文字程度)	看護の対象者の身体的状況を系統的かつ客観的に診査し、臨床判断できる基礎力と身体診査の方法について学習する。 看護の対象者の身体的機能に直接働きかけ、科学的根拠に基づいて基本的な技術を習得し実践する方法を育む。
到達目標	1. ヘルスアセスメントの意義・概要が理解できる。 2. バイタルサイン測定することの意義を理解し正確に測定できる。 3. 身体計測の意義・計測方法が理解できる。 4. フィジカルアセスメントの目的が理解できる。 5. 人体の構造と機能を踏まえて、安全安楽を考慮したフィジカルアセスメントの方法について理解できる。 6. ヘルスアセスメントの方法が理解できる。
学位授与方針との関連	看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。 社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。

## 授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	松本 明子	ガイダンス ヘルスアセスメント	科目ガイダンス ヘルスアセスメントの概要 (講義)
第2回	松本 明子	ヘルスアセスメント	フィジカルアセスメントに必要な技術 (講義)
第3回	松本 明子	ヘルスアセスメント	バイタルサイン (体温・脈拍) (講義)
第4回	松本 明子	ヘルスアセスメント	バイタルサイン (呼吸・血圧) (講義)
第5回	松本 明子 磯田 容子、平林 潤子、酒井 見名子 他	ヘルスアセスメント	バイタルサイン測定 (デモンストレーション・演習)
第6回	松本 明子 磯田 容子、平林 潤子、酒井 見名子 他	ヘルスアセスメント	バイタルサイン測定 (演習)
第7回	松本 明子 磯田 容子、平林 潤子、酒井 見名子 他	ヘルスアセスメント	バイタルサイン測定 (演習)
第8回	酒井 見名子	ヘルスアセスメント	身体計測 (講義)
第9回	松本 明子	ヘルスアセスメント	フィジカルアセスメントの概要 呼吸のアセスメント (講義)
第10回	松本 明子	フィジカルアセスメント	循環・腹部のアセスメント (講義)
第11回	松本 明子 磯田 容子、平林 潤子、酒井 見名子 他	フィジカルアセスメント	呼吸・循環・腹部のアセスメント (デモンストレーション・演習)

第12回	松本 明子 磯田 容子、平林 潤子、酒井 見名子 他	フィジカルアセスメント	呼吸・循環・腹部のセサメント（デモンストレーション・演習）
第13回	松本 明子	フィジカルアセスメント	乳房・腋窩のアセスメント 筋骨格系のセサメント（講義）
第14回	松本 明子	フィジカルアセスメント	神経系のアセスメント（講義）
第15回	松本 明子	フィジカルアセスメント	神経系のアセスメント（講義）
第16回	松本 明子	フィジカルアセスメント	神経系のアセスメント（講義）
第17回	松本 明子	フィジカルアセスメント	心理・社会的アセスメント
第18回	松本 明子 磯田 容子、平林 潤子、酒井 見名子 他	フィジカルアセスメント	事例を用いたアセスメント（演習）
第19回	松本 明子 磯田 容子、平林 潤子、酒井 見名子 他	フィジカルアセスメント	バイタルサイン測定（技術チェック）（演習）
第20回	松本 明子 磯田 容子、平林 潤子、酒井 見名子 他	フィジカルアセスメント	バイタルサイン測定（技術チェック）（演習）
第21回	松本 明子 磯田 容子、平林 潤子、酒井 見名子 他	フィジカルアセスメント	バイタルサイン測定（技術チェック）（演習）
第22回	松本 明子 磯田 容子、平林 潤子、酒井 見名子 他		バイタルサイン測定（技術チェック）（演習）
第23回	松本 明子	まとめ	まとめ（講義）

授業時間外の学習	初回ガイダンス時に説明します。 事前課題の取り組みと事後学習が必修です。 演習前には事前課題と演習後には事後課題を課す。 技術習得に向けて積極的に練習をしてください。
目安時間	各回1時間程度
教科書	・茂野 香おる 他：「系統的看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②」医学書院 ・任 和子 他：「系統的看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③」医学書院 ・三上 れつ 他：演習・実習に役立つ基礎看護技術 根拠に基づいた実践をめざして」NOUVELLE HIROKAWA ・横山 美樹 他：「はじめてのフィジカルアセスメント」メヂカルフレンド社 ・坂井 建雄 他：「系統的看護学講座 専門分野 解剖生理学」医学書院
参考文献等	講義の際に適宜提示します。
評価の方法	試験（筆記試験）80%、課題20% 試験結果掲示後の答案開示については、問題・解答用紙の開示・返却しない。希望者に対して学習を深めてほしい点について伝える。
授業に関する実務経験	看護師として病院で勤務していた経験を基に、ヘルスアセスメントについて理解が深まるよう指導する。
オフィスアワー	講義終了後10分間

## シラバス参照

講義名	基礎看護学方法論Ⅴ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義・演習・実習
基準単位数	1	時間	30.00
履修要件	【新カリキュラム】2022年度入学生16期生から（旧基礎看護学方法論Ⅳ）		
配当年次・時期	1年次・後期		
必修/選択	必修		

## 担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 磯田 容子	第二看護学科

授業の概要(150文字程度)	看護を系統的に実践するための思考過程について学ぶ。その学習過程において、対象に必要な看護援助を導き出す方法を学ぶと共に論理的な思考力と判断力を身につける。看護過程は、看護の基盤となる思考過程であるため、事例学習を用いて個人ワークやグループディスカッションを通して問題解決思考を習得する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程のプロセスを述べることができる。</li> <li>2. アセスメント方法について説明することができる。</li> <li>3. 看護問題を構成する要素を述べることができる。</li> <li>4. 看護計画に必要な要素を述べることができる。</li> <li>5. 看護過程における評価の視点を述べることができる。</li> <li>6. 事例に基づき看護過程を系統的に記述できる。</li> <li>7. 演習では、自分の意見を述べ、相手の意見を聴き協調して討論ができる。</li> </ol>
学位授与方針との関連	看護師として十分な専門知識と技能を身につけている。社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。修得した知見を他者に対して論理的に説明できる。

## 授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	磯田 容子	科目ガイダンス 看護とは	科目ガイダンス 看護とは（講義） 看護という言葉が示す意味は広く多様であり、時代やニーズによって変化してきた。看護過程は、看護を実践するための思考と行動の過程を示すものであり、これを学ぶために「看護とは何か」を捉える。
第2回	磯田 容子	看護過程の各段階①	看護過程の基盤となる考え方（講義） 看護過程は、看護師が患者の健康上の問題を解決していくなかで必要な思考と行動の筋道である。その思考と行動を実践するための、看護解決過程やクリティカルシンキングといった考え方を学ぶ。
第3回	磯田 容子	看護過程の各段階②	看護過程の利点と看護過程の6つのステップ（講義） 現在も多くの看護師や看護理論家により実践と研究がおこなわれ、変化し続けているため、その解説には様々なものがあるが、「アセスメント」＝ゴードンの11の機能的健康パターン、「看護診断」、「看護計画の立案」「看護介入の実施」、「評価」のステップを学ぶ。
第4回	磯田 容子	看護過程の各段階③	情報収集（講義） アセスメントの最初のステップは、情報収集である。「人間の反応」の理解に必要なデータを、「コミュニケーション」、「フェイジカルアセスメント」、「観察」などにより収集することを学ぶ。
第5回	磯田 容子	看護過程の各段階④	情報の分析 アセスメント（講義） アセスメントとは、様々なライフプロセスをもち、それぞれ異なる健康状態にある患者が、どのような「人間の反応」を示しているか理解し、ゴードンの11の機能的健康パターンの概要を学ぶ。
第6回	磯田 容子	看護過程の各段階⑤	情報の分析 アセスメント（講義） アセスメントとは、様々なライフプロセスをもち、それぞれ異なる健康状態にある患者が、どのような「人間の反応」を示しているか理解し、ゴードンの11の機能的健康パターンの概要を学ぶ。
第7回	磯田 容子 松本 明	看護過程の各段階⑥	情報の分析 アセスメント（グループワーク） コミュニケーションやフェイジカルアセスメント、観察によって収集した情報の一つ一つが患者の状態を反映し、これらのデータを看護の知識を使用した意味づけが行えているか、グループ学習を通して学ぶ。

	平林 潤 子 見 酒井 名子		
第8回	磯田 容 子	全体像の把握	全体像の把握 関連図とは（講義） 「人間の反応」の関連性を把握し、分析を統合することにより、複数の「人間の反応」の因果関係を整理したり、複数の問題に共通する内容が把握できることにより、看護問題を含む健康上の問題が明らかになる。これらの問題に対する効果的な介入方法を考える過程を学ぶ。
第9回	磯田 容 子 松本 明 平林 潤 子 見 酒井 名子	関連図の書き方	関連図の書き方（グループワーク） 問題介入者の明確化を行い、「人間の反応」の理解によって把握した健康上の問題について、それぞれ主にどの職種が介入する問題なのか検討する。主にどの職種が介入するかは、「人間の反応」の分析を明らかにした原因や危険因子によって決まる。実在型問題なら原因・誘因に、リスク問題なら危険因子に着目して取り除いたり、軽減できる職種が主な介入者となる。ヘルスプロモーション型問題ならば意欲・願望を行動の変化や状況の改善につなげられる職種となる。 今回は特に、看護師が主に介入する問題に注目することを学ぶ。
第10回	磯田 容 子	看護診断	看護診断（講義） 患者が示す「人間の反応」への臨床判断である。アセスメントによって明らかになった看護問題、原因・誘因、危険因子を、看護診断の診断名や定義、関連因子、危険因子と照合して診断する。NANDA-I看護診断の解説を通して、行為としての看護診断を学ぶ。
第11回	磯田 容 子	看護計画①	看護計画（講義） 「目標・成果・成果指標の達成の設定」は、看護介入によって目指す。患者の好ましい変化を明確にするステップを学ぶ。目標・成果・成果指標の設定には「RUMBAの法則」など参考に設定する。また、看護診断ごとに患者の個性に合わせた看護介入の計画を立案し、記述方法を学ぶ。
第12回	磯田 容 子 松本 明 平林 潤 子 見 酒井 名子	看護計画②	看護計画（グループワーク） 看護診断ごとに患者の個性に合わせた看護介入の計画の記述方法について具体的に学ぶ。
第13回	磯田 容 子	SOAP・評価	SOAP・評価（講義） 実践前の患者の状態や当日の状況を確認し、必要に応じて看護計画が実施可能か、変更が必要であれば修正してから実施する。実施時には常に患者を観察し、実施している看護介入が適切かどうか確認をすることが重要である。記録方法を学ぶことを通して、看護過程のステップに評価が含まれることを学ぶ。
第14回	磯田 容 子 松本 明 平林 潤 子 見 酒井 名子	看護計画実践	看護計画実践（グループワーク） 看護計画を基に看護実践を行う。
第15回	磯田 容 子 松本 明 平林 潤 子 見 酒井 名子	看護計画実践まとめ	看護計画実践（グループワーク）
授業時間外の学習			学生が主体的・積極的に学習を進めること。 事例学習における個人ワークは、課題として適宜提出を求める。 グループワークへの参加は課題である個人ワークを完成させていることを必須とする。
目安時間			各回1～2時間程度
教科書			茂野香おる 他『系統看護学講座Ⅰ 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②』医学書院 『NANDA-I看護診断 定義と分類』日本看護診断学会監訳（医学書院）
参考文献等			講義の際に適宜紹介・資料の配布を行う。
評価の方法			定期試験（50%） 提出物（50%） 希望者に対し、試験結果提示後1週間のみ答案用紙の開示を行う。
授業に関する実務経験			看護師として、病院で勤務した経験を基に授業を展開する。
オフィスアワー			水曜日 12:00～13:00

## シラバス参照

講義名	地域・在宅看護概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義・演習・実習
基準単位数	2	時間	45.00
履修要件	特になし【新カリキュラム】16期生から		
配当年次・時期	1年次・後期		
必修/選択	必修		

## 担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 川口 ちづる	第二看護学科

授業の概要(150文字程度)	<p>少子・超高齢社会の進展による人口および疾病構造は変化しており、それに応じた保健医療福祉体制の整備が急務になっている。地域で療養する人々だけではなく、生活する人々とその家族を看護の対象とするとともに、療養の場の拡大を踏まえ、地域における多様な場での看護を学ぶ。</p>
到達目標	<p>自らの生活を再認識する過程を通し、専門職としての地域・暮らし・生活を見る視点を養い、あらゆる健康レベルにある地域・在宅看護の対象を知ることの意義を見出す。また、地域・在宅看護を担う看護職として、地域住民や多職種と連携する基盤となる人間関係づくりのあり方を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域包括ケアシステムが推進される背景を理解し、地域包括ケアシステムにおける生活者としての自分、また看護専門職を目指す者としての自分の位置づけを知ることができる。</li> <li>2. 生活者として自分の「地域」「暮らし」を認識する過程を通し、専門職として「地域」「暮らし」を知る意義とその手段を導き出すことができる。</li> <li>3. 地域で暮らす人々の健康な生活を支える「予防」について基礎的な知識が理解できる。</li> <li>4. 地域・在宅看護における基本理念が理解できる。</li> <li>5. 合意形成や協働する体験学習を通し、人間関係づくりについて考察できる。</li> <li>6. 専門職として自ら課題を見出し、主体的に学習する基礎的な姿勢を身につけることができる。</li> </ol>
学位授与方針との関連	<p>社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。 チーム医療の一員として同僚や他職種の人と協調性を保ちつつ積極的に関わることができる。 医療・保健・福祉における社会資源の知識を持ち、活用方法を考えることで支援システムについて知ることができる。</p>

## 授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	川口 ちづる 狩野 由紀子	地域・在宅看護とは	地域・在宅での看護がイメージできる
第2回	川口 ちづる	地域・在宅看護が推進される背景	保健・医療・福祉の動向
第3回	川口 ちづる	地域・在宅看護の対象理解 1	自分の住む地域、大学のある地域を知る 1
第4回	川口 ちづる 狩野 由紀子	地域・在宅看護の対象理解 2	自分の住む地域、大学のある地域を知る 2
第5回	川口 ちづる 狩野 由紀子	地域・在宅看護の対象理解 3	自分の住む地域、大学のある地域を知る 3
第6回	川口 ちづる	地域・在宅看護の対象理解 4	多様な暮らしを知る 1 ライフサイクル
第7回	川口 ちづる	地域・在宅看護の対象理解 5	多様な暮らしを知る 2 健康レベル
第8回	川口 ちづる	地域・在宅看護の対象理解 6	多様な暮らしを知る 3 生活史 語りを聴く
第9回	川口 ちづる 狩野 由紀子	地域・在宅看護の対象理解 7	多様な暮らしを知る 4 支え合い暮らす家族
第10回	川口 ちづる 狩野 由紀子	地域・在宅看護の対象理解 8	多様な暮らしを知る 5 まとめ

第11回	川口 ちづる	地域・在宅看護の基本理念 1	ケアとは
第12回	川口 ちづる	地域・在宅看護の基本理念 2	自立支援
第13回	川口 ちづる	地域・在宅看護の基本理念 3	ケアマネジメント
第14回	川口 ちづる 狩野 由紀子	地域で暮らすことを支える看護 1	地域包括ケアシステムと多様な看護の場
第15回	川口 ちづる	地域で暮らすことを支える看護 2	健康な生活を支える「予防」①理論
第16回	川口 ちづる	地域で暮らすことを支える看護 3	健康な生活を支える「予防」②理論を活用した実践と振り返り
第17回	川口 ちづる	地域で暮らすことを支える看護 4	療養生活を支える制度①介護保険
第18回	川口 ちづる	地域で暮らすことを支える看護 5	療養生活を支える制度②介護保険
第19回	川口 ちづる	地域で暮らすことを支える看護 6	療養生活を支える制度③権利擁護
第20回	川口 ちづる 狩野 由紀子	地域・在宅における連携 1	多職種連携／チーム医療
第21回	川口 ちづる 狩野 由紀子	地域・在宅における連携 2	多様性の理解
第22回	川口 ちづる 狩野 由紀子	地域・在宅における連携 3	自分の伝えたいことを上手に伝える
第23回	川口 ちづる 狩野 由紀子	地域・在宅における連携 4	チームワーク
授業時間外の学習	≪事前学習≫講義に関連するテキストの章を読み、基礎知識を得たうえで授業に参加する。 授業で提示する事前課題に取り組む。 ≪事後学習≫講義に関連するテキストの章を再読する。 授業で提示する事後課題に取り組む。		
目安時間	1時間程度		
参考文献等	国民衛生の動向 臺有桂「ナースング・グラフィカ 地域・在宅看護論1 地域療養を支えるケア 第7版」メディカ出版 臺有桂「ナースング・グラフィカ 地域・在宅看護論2 在宅療養を支える技術 第2版」メディカ出版 河原加代子「系統看護学講座 地域・在宅看護論1 地域・在宅看護の基盤 第6版」医学書院 河原加代子「系統看護学講座 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践 第6版」医学書院		
評価の方法	筆記試験：30% 課題レポート：70%  筆記試験、課題レポートは返却しない。		
授業に関する実務経験	大学での授業経験、地域包括支援センターや退院調整看護師としての経験により得た知識・技術を生かして授業を行う。		
オフィスアワー	水曜日12：10～12：30		



シラバス参照

講義名	成人看護学概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	1	時間	30.00
履修要件	特になし		
配当年次・時期	1年次・後期		
必修/選択	必修		

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 森 美由紀	第二看護学科

授業の概要 (150文字程度)	成人各期の身体的・精神的・社会的特徴や保健問題・動向について教授する。生活習慣や職業と健康障害との関連や、健康障害の予防や健康の保持・増進・回復のための看護実践について学ぶ。成人看護に有用な理論や概念、成人学習についても教授する。成人の紙上事例に対する具体的な看護介入を学ぶ。また成人看護学総論の国家試験問題に取り組む。
到達目標	成人各期の身体的・精神的・社会的特徴や保健問題・動向、生活習慣や職業と健康障害との関連について、グループワーク・発表等を通して理解できる。 健康の保持・増進、疾病の予防、健康障害のある成人の健康回復のための看護実践について理解できる。 理論や概念をもとに成人の特徴を理解し、看護実践について考えることができる。 修得した知識をもとに、紙上事例の看護介入を考えることができる。 修得した知識をもとに、成人看護学総論の国家試験問題を解くことができる。
学位授与方針との関連	看護師として十分な専門知識と技能を身につけている。 社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。 医療・保健・福祉における社会資源の知識を持ち、活用方法を考えることで支援システムについて知ることができる。

授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	森 美由紀	成人の特徴	成人とは、大人とは、成人の区分・発達課題・役割、成人各期の特徴、成人と死（講義）
第2回	森 美由紀	成人の特徴	身体機能の特徴と看護（講義）
第3回	森 美由紀	生活の特徴	成人の生活（講義）
第4回	森 美由紀	健康観	多様な健康観から看護を考える…自立度・自尊心・QOLなど（講義）
第5回	森 美由紀	成人学習	アンドラゴジーとエンパワメントの概念から、成人学習と成人看護を考える（講義）
第6回	森 美由紀	健康問題	生活習慣と健康障害との関連、職業に関連する健康障害、「国民衛生の動向」の文献から成人の保健問題とその動向について【事前課題あり】（発表）
第7回	森 美由紀	健康問題	生活習慣と健康障害との関連、職業に関連する健康障害、「国民衛生の動向」の文献から成人の保健問題とその動向について【事前課題あり】（発表）
第8回	森 美由紀	健康障害	生活ストレスやセクシャリティに関連する健康障害（講義）
第9回	森 美由紀	健康障害	余暇活動に伴う健康障害、更年期にみられる健康障害（講義）
第10回	森 美由紀	理論や概念	成人看護に有用な理論や概念…病みの軌跡、セルフケア（講義）

第11回	森 美由紀	理論や概念	成人看護に有用な理論や概念…ストレス、危機 (講義)
第12回	森 美由紀	理論や概念	成人看護に有用な理論や概念…適応、自己効力、 ヘルスプロモーション (講義)
第13回	森 美由紀	紙上事例	事例から成人患者の看護介入を考える【事前課題あり】 (発表)
第14回	森 美由紀	紙上事例	事例から成人患者の看護介入を考える【事前課題あり】 (発表)
第15回	森 美由紀	小テスト	成人看護学総論の国家試験問題と解説 (講義)

授業時間外の学習	①事前に教科書を読み予習することと、授業のあとに教科書や資料を読み復習を行う。 ②文献や信頼のおけるインターネット情報を活用して、教員の提示する課題に取り組む。
目安時間	①各回1時間程度 ②各回5時間程度
教科書	安酸史子編「ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論」メディカ出版 国民衛生の動向 厚生労働統計協会
参考文献等	ピエール・ウグ「慢性疾患の病みの軌跡」医学書院 佐藤栄子「中範囲理論入門」日総研, その他、適宜紹介していく。
評価の方法	試験90%、課題の取り組み10%で評価する。 希望者を対象に、試験結果掲示後に定めた日程で点数開示を行う。
授業に関する実務経験	看護師として病院をはじめとする医療機関で勤務していた経験をもとに授業を展開する。
オフィスアワー	水曜日 12:10~13:00 (3年生の実習期間中は学内日の水曜日に限る)

[ウインドウを閉じる](#)

## シラバス参照

講義名	精神看護学概論		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	1	時間	30.00
履修要件	特になし		
配当年次・時期	1年次・後期		
必修/選択	必修		

## 担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 谷川 英二	第二看護学科

授業の概要 (150文字程度)	精神看護学概論では現代社会に影響を受ける心の健康、健康問題を学び、メンタルヘルスの意義と必要性を知るのを目指す。精神科医療の歴史の変遷から精神障がい者の理解を図り、人権擁護、法律の意義・必要性について学ぶ。また、社会的側面として精神保健福祉を学ぶことで、精神看護を行うための基礎的な知識が習得できるように目指す。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. こころの発達とこころの健康を理解することができる。</li> <li>2. こころの健康の保持・増進を学ぶことができる。</li> <li>3. 精神看護の対象を理解することができる。</li> <li>4. 精神看護の意義を学ぶことができる。</li> <li>5. 精神の歴史の変遷を学ぶことができる。</li> <li>6. 精神にかかわる法制度を学ぶことができる。</li> </ol>
学位授与方針との関連	看護師として十分な専門知識と技能を身につけている。社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。医療・保健・福祉における社会資源の知識を持ち、活用方法を考えることで支援システムについて知ることができる。

## 授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	谷川 英二	精神科看護と精神看護	授業のガイダンス 精神看護について、精神看護の意義と役割 (講義・個人課題)
第2回	谷川 英二	心・精神とは	「こころとは」・「精神」とはについて、個人課題・グループ間で話し合った内容・考えをもとに、共有するための発表資料をグループで作成する。(発表準備・講義)
第3回	谷川 英二	心・精神とは	「こころとは」・「精神」とはについて、個人課題・グループ間で話し合った内容・考えをもとに、共有するための発表資料をグループで作成する。(発表準備・講義)
第4回	谷川 英二	心・精神とは	「こころとは」・「精神」とはについて、各グループで発表 (発表・講義)
第5回	谷川 英二	精神看護で学ぶこと	「心のケア」と現代社会・精神障害の体験と精神看護 (講義)
第6回	谷川 英二	精神看護で学ぶこと	精神看護で何を学ぶのか (講義)
第7回	谷川 英二	精神保健の考え方	精神の健康とは・精神障害のとらえ方・ストレスと健康の危機 (講義)
第8回	谷川 英二	人間の心の働きとパーソナリティ	人間の心の諸活動 (講義)
第9回	谷川 英二	人間の心の働きとパーソナリティ	心のしくみと人格の発達 (確認問題・講義)
第10回	谷川 英二	社会の中の精神障害	精神障害と治療の歴史 (世界史) (講義)
第11回	谷川 英二	社会の中の精神障害	精神障害と治療の歴史 (日本史) (講義)
第12回	谷川 英二	社会の中の精神障害	精神障害と文化ー多様性と普遍性・精神障害と社会学 (講義)

第13回	谷川 英二	精神保健に関する法律と制度	精神科領域に必要な法律（講義）
第14回	谷川 英二	精神保健に関する法律と制度	法律・制度における課題・主要な精神保健医療福祉対策（講義）
第15回	谷川 英二	総まとめ	学習のまとめ（講義・確認問題・復習）
授業時間外の学習	<p>事前に出す課題と、振り返りの問題を実施するので、講義項目の教科書での予習と、講義後の配布資料の復習を行うこと。授業後、理解が不十分だったところは復習し補うこと。心と社会の関連について、日頃からニュース報道や新聞報道でも関心と興味をもって、心の問題と社会との関係について自分の見識を深めていくこと。第1回・2回と演習後には「精神科のイメージ」「心とは・精神とはについて」のレポート。グループワーク終了後は、相互評価用紙の課題を課す。その他、授業内容に合わせて課題提出を提示する。</p>		
目安時間	各回 1 時間程度		
教科書	<p>著書代表：武井朝子 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院          著書代表：武井朝子 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学② 医学書院</p>		
参考文献等	<p>監修：佐藤壹三 新体系看護学全書 精神看護学概論・精神保健 メヂカルフレンド社          監修：松下正明 精神看護学 医学芸術社</p>		
評価の方法	<p>定期試験（筆記） 100%          ・試験結果掲示後の答案方法：返却、開示なし。          （但し、希望者を対象に試験結果掲示後1週間のみ答案用紙の開示を行う）          ・講義内での小テストや、課題の結果については、適宜授業の中で振り返り、解説、講評する。</p>		
授業に関する実務経験	<p>看護師として病院で勤務していた経験を基に、人間の心の在り方や、健康上の問題について考える機会を提供したり、基礎知識を指導する。</p>		
オフィスアワー	<p>・毎週水曜日：12：00～13：00 （不在時は在室時に対応する）</p>		

[ウインドウを閉じる](#)

## シラバス参照

講義名	老年看護学方法論Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義・演習・実習
基準単位数	1	時間	30.00
履修要件	特になし		
配当年次・時期	2年次・後期		
必修/選択	必修		

## 担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 播木 清美	第二看護学科

授業の概要(150文字程度)	老年看護の視点は、高齢者のもてる力を維持・継続させ、その人に適した支援をすることである。紙上患者をもとに老年期にある対象を身体的・精神的・社会的に捉え、情報の整理・分析・統合・看護診断を行い計画立案し、演習を行う。個人ワークやグループワークを通して、主体的に学びを深める。
到達目標	<p>老年看護に必要な知識、技術、態度を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者を全人的に理解する。</li> <li>・高齢者の健康上の問題、生活者としての視点でアセスメントできる。</li> <li>・健康課題を軽減するための看護計画を対象の個性をふまえて立案することができる。</li> <li>・実践した看護を評価し必要に合わせて修正することができる。</li> <li>・高齢者に対し倫理的配慮ができる。</li> </ul>
学位授与方針との関連	<p>看護師として十分な専門知識を身につけている。</p> <p>患者あるいは対象となる個人やその家族と共感をもって接することができて、円滑なコミュニケーションをとることができる。</p> <p>社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。</p> <p>自己のスキルアップ、新しい知識の修得について意欲的であり、その方法について理解している。</p> <p>修得した知見を他者に対して論理的に説明できる。</p> <p>医療・保健・福祉における社会資源の知識を持ち、活用方法を考えることで支援システムについて知ることができる。</p>

## 授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	播木 清美	事例紹介	ガイダンス・事例紹介①・事前学習 (講義)
第2回	播木 清美	老年看護過程	老年看護過程の考え方 (講義)
第3回	播木 清美	情報の分析	情報の分析 (講義)
第4回	播木 清美 小夜 貴文	情報の分析	情報の分析 (講義・グループワーク)
第5回	播木 清美 小夜 貴文	関連図	関連図 (講義・グループワーク)
第6回	播木 清美 小夜 貴文	計画立案	計画立案 (講義・グループワーク)
第7回	播木 清美	事例の解説	事例の解説 (講義)
第8回	播木 清美	看護過程の追加	看護過程の追加・修正 (講義)
第9回	播木 清美 小夜 貴文	演習計画書	演習計画書作成 (グループワーク)
第10回	播木 清美 小夜 貴文	実技演習	演習計画書をもとに演習を行う (演習)
第11回	播木 清美 小夜 貴文	実技演習	演習計画書をもとに演習を行う (演習)

第12回	播木 清美	まとめ	グループでのまとめ (グループワークにてレポート作成)
第13回	播木 清美	問題点の抽出・立案	事例提示②・問題点の抽出・立案 (講義)
第14回	播木 清美	問題点の抽出・立案	問題点の抽出・立案 (講義)
第15回	播木 清美	目標志向型思考	目標志向型思考の考え方 (講義)
授業時間外の学習	事前に高齢者の特徴についてまとめておくこと。 授業時間内に到達しなかったところ。		
目安時間	事前に高齢者の特徴についてまとめておくこと。3時間程度 授業時間内に到達しなかったところ。各3時間程度		
教科書	北川公子他：系統看護講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 鳥羽研二他：系統看護講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 医学書院		
参考文献等	紙上事例に応じた、履修科目の教科書、授業資料等、その他、参考文献を適宜紹介していく。		
評価の方法	記録提出(内容)75% 演習15% レポート10%(第13回・14回) 事例①のレポート類は第12回講義終了後に課す。事例②のレポートは第14回講義終了後に課す。各レポート類は採点后返却する。		
授業に関する実務経験	看護師として、病院・診療所で勤務していた経験を基に、老年看護の看護過程について指導する。		
オフィスアワー	16:10~17:10 (事前に連絡をしてください)		

[ウインドウを閉じる](#)

## シラバス参照

講義名	母性看護学方法論 I		
講義開講時期	通年	講義区分	講義・演習・実習
基準単位数	2	時間	45.00
履修要件	特になし		
配当年次・時期	2年次・通年		
必修/選択	必修		

## 担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 中村 乃利子	第二看護学科

授業の概要(150文字程度)	<p>周産期における正常な経過をたどる妊・産・褥婦の身体・心理・社会的変化を理解する。胎児の発育・新生児の適応過程を理解し、対象と家族を含めた親になる過程に必要な看護を学ぶ。また、ハイリスク妊娠をはじめとする、健康問題を持つ妊・産・褥婦と新生児について、理解を深め、必要な看護を学ぶ。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠期にある母子の生理的变化を理解し、母子と家族へのセルフケア支援の必要性と看護を理解できる。</li> <li>2. 分娩期にある母子の生理的变化を理解し、母子と家族へのセルフケア支援の必要性と看護を理解できる。</li> <li>3. 産褥・新生児期の母子の生理的变化を理解し、母子と家族へのセルフケアおよび親になる過程の支援の必要性と看護を理解できる。</li> <li>4. 妊娠各期および新生児のハイリスク状態について理解し、母子と家族への看護の方法を学ぶ。</li> </ol>
学位授与方針との関連	<p>看護師・助産師として十分な専門知識と技能を身につけている。 患者あるいは対象となる個人やその家族等と共感を持って接することができ、円滑なコミュニケーションをとることができる。 社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。 自己のスキルアップ、新しい知識の修得について意欲的であり、その方法について理解している。 修得した知見を他者に対して論理的に説明できる。 チーム医療の一員として同僚や他職種の人と協調性を保ちつつ積極的に関わることができる。 医療・保健・福祉における社会資源の知識を持ち、活用方法を考えることで支援システムについて知ることができる。</p>

## 授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	中村 乃利子	妊娠期における看護①	1. 妊娠期の身体的特性 (講義) 1) 妊娠の生理 2) 胎児の発育とその生理 3) 母体の生理的变化 (身体・心理)
第2回	中村 乃利子	妊娠期における看護②	2. 妊娠期の心理・社会的特性 (講義) 1) 妊婦の心理 2) 妊婦と家族および、社会
第3回	中村 乃利子	妊娠期における看護③	4. 妊婦と胎児のアセスメント 1) 妊娠とその診断 (講義) 2) 妊婦健康診査 (鑑賞) (講義) 3) 妊婦の日常生活 (演習)
第4回	中村 乃利子	妊娠期における看護④	5. 妊婦と家族の看護 1) 妊婦の健康相談・教育の実際 (講義) (鑑賞) 2) 親になるための準備教育 (講義) (演習)
第5回	中村 乃利子	妊娠期における看護⑤	6. 妊娠の異常と看護 (講義) 1) ハイリスク妊娠 2) 妊娠疾患
第6回	中村 乃利子	妊娠期における看護⑥	6. 妊娠の異常の看護 (講義) 3) ハイリスク妊婦の看護
第7回	中村 乃利子	分娩期における看護①	1. 分娩とは 2. 分娩の要素

			(講義)
第8回	中村 乃利子	分娩期における看護②	3. 正常分娩の経過 (講義) (鑑賞)
第9回	中村 乃利子	分娩期における看護③	4. 分娩に伴う産婦・胎児の健康状態に関するアセスメントと看護 1) 分娩各期のアセスメント (講義)
第10回	中村 乃利子	分娩期における看護④	2) 分娩各期の状態に応じた援助 (分娩期の看護計画) (鑑賞) (講義)
第11回	中村 乃利子	分娩期における看護⑤	5. 分娩の異常と看護 (講義) 1) 産道、娩出力の異常 2) 胎児の異常による分娩障害 3) 胎児機能不全
第12回	中村 乃利子	分娩期における看護⑥	6. 分娩の異常と看護 (講義) 4) 分娩時異常出血 5) 異常のある産婦の看護 6) 分娩時異常出血のある産婦の看護
第13回	中村 乃利子	産褥期における看護①	1. 産褥経過 2. 産婦のアセスメント (講義)
第14回	中村 乃利子	産褥期における看護②	3. 産婦と家族の看護 1) 身体機能の回復および進行性変化への看護 (講義) (鑑賞)
第15回	中村 乃利子	産褥期における看護③	2) 児との関係確立への看護 (愛着・絆形成) 3) 育児にかかわる看護 (講義) (鑑賞)
第16回	中村 乃利子	産褥期における看護④	4. 施設退院後の看護 (講義)
第17回	中村 乃利子	産褥期における看護⑤	5. 産褥の異常と看護 (講義) 1) 子宮復古不全 2) 異常のある産婦の看護
第18回	中村 乃利子	産褥期における看護⑥	4. 産褥の異常と看護 帝王切開術を受ける妊産婦への看護 (講義)
第19回	中村 乃利子	新生児期における看護①	1. 新生児の生理 (講義) 1) 新生児とは 2) 新生児の機能
第20回	中村 乃利子	新生児期における看護②	2. 新生児のアセスメント (講義) 1) 新生児の診断 2) 新生児の健康状態のアセスメント
第21回	中村 乃利子	新生児期における看護③	3. 新生児の看護 (講義) (鑑賞)
第22回	中村 乃利子	新生児期における看護④	4. 生後1か月健診に向けた退院時の看護 (講義) (鑑賞)
第23回	中村 乃利子	新生児期における看護⑤	5. 新生児の異常の看護 (講義)

授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の該当箇所を読み、疑問やわかりにくいところを明らかにして講義を受けること。</li> <li>・授業中に質問できなかったことや講義を受けてわかりにくかったことは、講義後及びMANABAにおいて質問を受ける。</li> <li>・妊娠期・分娩期・産褥期・新生児の学習ノートを作成を課す。</li> </ul>
目安時間	各回1時間程度 各期5時間程度
教科書	・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 森 恵美他著 医学書院 第14版 2021年
参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母性看護学Ⅱ マタニティサイクル 母と子そして家族へのより良い看護実践 林 ひろみ他著 南江堂 改訂第2版 2018年</li> <li>・病気が見える⑩ 産科 (医療情報科学研修所編・メディックメディア・第4版 2018年)</li> </ul>
評価の方法	試験(筆記試験)80% 小テスト10% 授業態度等 10% 試験後、問題・解答用紙は返却しないが、解答の開示は可能とする。
授業に関する実務経験	助産師として、病院で勤務していた経験を基に事例をもってマタニティサイクル及び新生児のフィジカルアセスメントや看護について指導する。
オフィスアワー	金曜日 16:10~17:15 ・不在の場合もあるので、出来れば事前に連絡してください。 オフィスアワー以外でも随時対応いたします。

## シラバス参照

講義名	母性看護学方法論Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義・演習・実習
基準単位数	1	時間	30.00
履修要件	特になし		
配当年次・時期	2年次・後期		
必修/選択	必修		

## 担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 梅川 弘子	第二看護学科

授業の概要(150文字程度)	母性看護学方法論Ⅰで学んだ基本的知識と看護技術をもとに、妊娠期・分娩期を踏まえた、産褥期・新生児期の看護過程を展開し、対象のセルフケア能力を高める看護を考える能力を培う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象の妊娠期・分娩期を踏まえた、産褥期および新生児の看護過程を展開できる。</li> <li>2. 家族を含めた看護の必要性が理解できる。</li> <li>3. 母性看護に必要な看護技術を理解し、習得できる。</li> </ol>
学位授与方針との関連	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師として十分な専門知識と技能を身につけている。</li> <li>・患者あるいは対象となる個人やその家族等と共感を持って接することができ、円滑なコミュニケーションをとることができる。</li> <li>・社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。</li> <li>・自己のスキルアップ、新しい知識の修得について意欲的であり、その方法について理解している。</li> <li>・修得した知見を他者に対して論理的に説明できる。</li> <li>・チーム医療の一員として同僚や他職種の人と協調性を保ちつつ積極的に関わることができる。</li> <li>・医療・保健・福祉における社会資源の知識を持ち、活用方法を考えることで支援システムについて知ることができる。ついて知ることができる。</li> </ul>

## 授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	梅川 弘子	授業ガイダンス ウェルネス志向型看護過程	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業・演習の概要</li> <li>2. ウェルネス志向型看護過程の特徴</li> <li>3. 事例Aさんの理解 -妊娠期・分娩期・産褥期・新生児の情報を読み取る (講義)</li> </ol>
第2回	梅川 弘子	妊娠期の看護過程	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠期の理解</li> <li>2. 事例Aさんのアセスメントから必要な看護を考える (講義)</li> </ol>
第3回	梅川 弘子	分娩期の看護過程	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 正常分娩(事例Aさんの分娩期)看護過程</li> <li>2. 帝王切開の看護過程(講義)</li> </ol>
第4回	梅川 弘子	産褥期の看護過程	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事例Aさん(正常)産褥期の看護過程(講義)</li> </ol>
第5回	梅川 弘子	ハイリスク褥婦の看護過程	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 帝王切開褥婦の看護過程(講義)</li> </ol>
第6回	梅川 弘子	新生児の看護過程 1	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出生直後の新生児の理解</li> <li>2. 早期新生児期フィジカルアセスメント(日齢1日) (講義)</li> </ol>
第7回	梅川 弘子	新生児の看護過程 2	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日齢3日の新生児に必要なフィジカルアセスメントと必要な看護を考える(講義)</li> </ol>
第8回	梅川 弘子 中村 乃利子	看護過程の演習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事例Bさんの全体像を把握する</li> <li>2. 事例Bさんの受け持ち時のアセスメントの実際(演習)</li> </ol>
第9回	梅川 弘子	母性看護技術 1-①	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊婦の身体の計測(レオポルド触診法・腹囲・子宮底長)</li> <li>2. 褥婦の身体的触診の方法(子宮収縮・乳房の触診法) (講義)</li> </ol>

第10回	梅川 弘子 中村 乃利子	母性看護技術 1-② 正確な看護技術演習	1. 妊婦の身体の計測 (レオポルド触診法・腹囲・子宮底長) 2. 褥婦の身体的触診の方法 (子宮収縮・乳房の触診法) (演習)
第11回	梅川 弘子	母性看護技術 2-①	1. 褥婦の観察 (全身状態・腹部・乳房) (講義)
第12回	梅川 弘子 中村 乃利子	母性看護技術 2-② 正確な看護技術演習	1. 褥婦の観察 (全身状態・腹部・乳房) (演習)
第13回	梅川 弘子	母性看護技術 3-①	1. 新生児のフィジカルアセスメントに必要な諸観察 1) 出生直後の観察 2) 日々の観察 (体温・心拍その他) (講義)
第14回	梅川 弘子 中村 乃利子	母性看護技術 3-② 正確な看護技術演習	1. 実習に向けて母性看護技術の習得 1) 新生児の計測とバイタル測定 3) 新生児の日常生活援助 (演習)
第15回	梅川 弘子 中村 乃利子	事例Bさんについて看護過程の発表	1. 各担当分野を発表 1) 妊娠の経過 2) 胎児の経過 3) 分娩の経過 4) 分娩期の胎児の状態 5) 産褥 1日目 6) 新生児日齢 1日 7) 産褥 3日目 8) 新生児日齢 3日 9) 褥婦の看護計画 10) 新生児の看護計画 (演習)
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題 (看護過程の紙上事例展開) は、授業時間以外で遂行する。</li> <li>・グループワーク (産褥・新生児の標準看護計画) は授業時間で不足の場合は、時間以外で遂行する。</li> <li>・技術演習は、授業資料、母性看護技術や他の参考書などを利用して実習でも使用できるように援助計画を作成する。</li> <li>・技術演習は公開されている指定の動画の確認及びイメージトレーニングをしてくること。</li> </ul>		
目安時間	各回 1 時間程度		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 森 恵美他著 医学書院 第13版 根拠と事故防止からみた 母性看護技術 石村 由利子他著 医学書院 第2版 根拠がわかる母性看護過程 事例で学ぶウェルネス志向型ケア計画 中村 幸代他著 南江堂		
参考文献等	母性看護学Ⅱ マタニティサイクル 母と子そして家族へのより良い看護実践 林 ひろみ他著 南江堂 改訂第2版 実践 マタニティ診断 青木 康子他著 医学書院 第4版第2刷 ウェルネス看護診断にもとづく看護過程 大田 操編著 医歯薬出版株式会社 現場ですぐ使える標準看護計画 第3巻 香川大学医学部付属病院看護部 標準看護計画検討会 編 日総研		
評価の方法	筆記試験80% 実技演習レポート10% 事例看護展開記録10% 希望者を対象に試験結果掲示後約7日間のみ答案を開示します。 希望者はできるだけ事前に連絡をしてください。		
授業に関する実務経験	助産師として病院及び地域保健センターでの業務に従事していた経験を基に、事例をもって褥婦・新生児の看護過程及び看護技術について指導する。		
オフィスアワー	水曜日 16:10~17:10 ・不在の場合もあるので、出来れば事前に連絡してください。 オフィスアワー以外でも随時対応いたします。		

## シラバス参照

講義名	小児看護学方法論 I		
講義開講時期	通年	講義区分	講義・演習・実習
基準単位数	2	時間	45.00
履修要件	特になし		
配当年次・時期	2年次 ・ 通年		
必修/選択	必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
助教	◎ 橘 依子	第二看護学科

授業の概要(150文字程度)	小児看護はあらゆる健康レベルの子どもとその家族を対象とする。子どもの最善の利益を目指すために健康障害をもつ子どもと家族に必要な看護の方法について理解する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康障害が小児と家族に及ぼす影響について理解できる。</li> <li>2. 小児看護の特殊性を理解し、必要な援助の根拠を理解できる。</li> <li>3. 様々な状況下にある子どもに必要な看護を理解できる。</li> <li>4. 小児看護に必要な看護技術を習得できる。</li> </ol>
学位授与方針との関連	<p>看護師として十分な専門知識と技能を身につけている。</p> <p>患者あるいは対象となる個人やその家族等と共感を持って接することができ、円滑なコミュニケーションをとることができる。</p> <p>社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。</p> <p>自己のスキルアップ、新しい知識の修得について意欲的であり、その方法について理解している。</p> <p>修得した知見を他者に対して論理的に説明できる。</p> <p>チーム医療の一員として同僚や他職種の人と協調性を保ちつつ積極的に関わることができる。</p> <p>医療・保健・福祉における社会資源の知識を持ち、活用方法を考えることで支援システムについて知ることができる。</p>

## 授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	橘 依子	子どもの認知発達段階と病気についての理解	ガイダンス、子どもの発達段階と疾患のとらえ方 (講義)
第2回	橘 依子	病気・障害を持つ子どもと家族の看護	病気・障害が子どもと家族に与える影響 (講義)
第3回	橘 依子	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護	外来における子どもと家族の看護 (講義)
第4回	原 千恵	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護	在宅療養中の子どもと家族の看護 (講義)
第5回	原 千恵	子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護	災害時の子どもと家族の看護 (講義)
第6回	原 千恵	子どもにおける疾病の経過と看護	慢性期にある子どもと家族の看護 (講義)
第7回	橘 依子	子どもにおける疾病の経過と看護	急性期にある子どもと家族の看護 (講義)
第8回	橘 依子	子どもにおける疾病の経過と看護	周手術期にある子どもと家族の看護 (講義)
第9回	橘 依子	子どもにおける疾病の経過と看護	終末期にある子どもと家族の看護 (講義)
第10回	原 千恵	子どものアセスメント	アセスメントに必要な技術、フィジカルアセスメント (講義)
第11回	原 千恵	症状を示す子どもの看護	症状(痛み、呼吸困難、チアノーゼ、ショック、意識障害)を示す子ども (講義)
第12回	橘 依子	症状を示す子どもの看護	症状(発熱、脱水、けいれん)を示す子ども (講義)
第13回	原 千恵	症状を示す子どもの看護	症状(発疹、嘔吐、下痢、便秘、浮腫)を示す子ども (講義)
第14回	橘 依子	検査や処置を受ける子ども	子どもにとっての検査・処置体験および看護の実際 (講義)

		もの看護	
第15回	橋 依子	検査や処置を受ける子どもの看護	インフォームドアセント、プレパレーション (講義)
第16回	橋 依子	検査や処置を受ける子どもの看護	与薬・輸液管理・排泄・経管栄養 (講義)
第17回	橋 依子	検査や処置を受ける子どもの看護	身体計測・検体採取(採尿、採便、採血、骨髄穿刺、腰椎穿刺) (講義)
第18回	橋 依子	検査や処置を受ける子どもの看護	呼吸症状の緩和、救命処置 (講義)
第19回	橋 依子	子どもの虐待と看護	児童虐待とは、子どもを取り巻く社会背景と虐待、虐待の早期発見について (講義)
第20回	原 千恵	障害のある子どもと家族の看護	障害のとらえ方、障害のある子どもと家族の特徴と看護 (講義)
第21回	橋 依子 原 千恵	小児看護学方法論Ⅰのまとめ	小テスト、技術演習に向けての準備 (講義)
第22回	橋 依子 原 千恵	小児看護技術演習	実習に向けての小児看護学技術の習得 (演習)
第23回	橋 依子 原 千恵	小児看護技術演習	実習に向けての小児看護学技術の習得 (演習)
授業時間外の学習	小児看護学概論の知識が必須。授業の予習・復習だけでなく、小児看護学概論の復習もすること。演習授業前には、各自課題を行い、技術について予習を行うこと。		
目安時間	各回1～2時間程度		
教科書	小児臨床看護学総論、小児臨床看護学各論 医学書院		
参考文献等	筒井真優美：小児看護学 子どもと家族の示す行動への判断とケア 日総研 白木和夫他：ナースとコメディカルのための小児科学 日本小児科医事出版社 松森直美他編：小児看護ケアモデル実践集 へるす出版 荒木俊彦他編：改訂版 テキスト 障害児保育 全障研出版部 浅野みどり編：根拠と事故防止からみた 小児看護技術 医学書院、雑誌：小児看護 へるす出版 山田桂子・泊祐子編：看護判断のための気づきとアセスメント小児看護 中央法規		
評価の方法	試験(筆記)：90%、小テスト・授業態度・演習課題：10% 試験結果の答案開示方法 希望者を対象に、試験結果掲示後1週間で、担当教員の指示した日時に答案用紙の開示を行う		
授業に関する実務経験	看護師、保健師として病院や施設で勤務していた経験を基にして、指導する。		
オフィスアワー	水曜日 12:00～13:00		

[ウインドウを閉じる](#)

## シラバス参照

講義名	公衆衛生看護学概論 I		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	1	時間	15.00
履修要件			
配当年次・時期	1年次・前期		
必修/選択	必修		

## 担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 丸山 睦	専攻科
非常勤講師	菊川 縫子	専攻科

授業の概要 (150文字程度)	公衆衛生看護の理念・目的、対象、活動方法についての基礎を学ぶ。公衆衛生および公衆衛生看護とは何かについて、歴史的な変遷と社会環境と関連させて理解する。健康課題の解決のための活動方法や社会資源について理解する。公衆衛生看護活動の展開方法について、実習する市区町村の活動と照らし合わせて理解する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生看護の理念・目的、対象、方法について理解することができる。</li> <li>2. 公衆衛生についての歴史を理解し、社会環境と関連させて理解することができる。</li> <li>3. 地域の健康問題解決のための活動方法についての基本的な知識を身につけることができる。</li> <li>4. 公衆衛生看護活動の展開方法について理解し、地域に応じた具体的方法を考えることができる。</li> </ol>
学位授与方針との関連	看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。地域の健康課題を明確にし、その課題解決に向けて計画・立案する方法を理解している。地域に存在する社会資源の把握及び活用方法を修得し、必要な支援システムや資源について考えることができる。

## 授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	丸山 睦	公衆衛生看護の理念と目的	地域における保健師の保健活動に関する基本的指針・個から集団へつながる活動（講義）
第2回	丸山 睦	公衆衛生看護の対象と場	公衆衛生看護の対象・公衆衛生看護の場・保健所と保健センター（講義）
第3回	丸山 睦	プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション・SDGs	プライマリヘルスケア及びヘルスプロモーション・SDGsについて（講義）
第4回	丸山 睦 菊川 縫子	公衆衛生の歴史	公衆衛生制度のあゆみ（講義）
第5回	丸山 睦 菊川 縫子	公衆衛生活動の実際	公衆衛生活動の実際・放射線の人体への影響（講義）
第6回	丸山 睦	人口及び疾病構造の変化	人口の推移・人口動態・疾病構造の変化について（講義）
第7回	丸山 睦	公衆衛生看護活動の展開	公衆衛生看護活動の具体的な展開方法・社会格差（講義・演習）
第8回	丸山 睦	保健計画の策定	公衆衛生看護活動の計画・計画における市民参加（講義・演習）

授業時間外の学習	事前にテキストで予習し、講義の内容の理解を進めること。講義内容に出てきた用語について、復習して理解を深める。授業の後半では、実習Ⅱの実習地をフィールドとして作業しながら授業を展開するので、授業時間以外にも実習地のことを調べておくこと。
目安時間	1時間程度
教科書	「標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論」 医学書院 「国民衛生の動向2021/2022」 厚生労働統計協会
参考文献等	授業時間内に適宜紹介
成績評価の方法	定期試験（筆記試験）80%、演習評価20% 定期試験後、個人の解答用紙は返却しない
授業に関する実務経験	行政保健師として勤務していた経験をもとに、公衆衛生看護の理論や展開方法について指導する。
オフィスアワー	講義終了後10分間

[ウインドウを閉じる](#)

## シラバス参照

講義名	公衆衛生看護学概論Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	1	時間	15.00
履修要件			
配当年次・時期	1年次・後期		
必修/選択	必修		

## 担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 野崎 志津	専攻科

授業の概要(150文字程度)	公衆衛生看護の対象と活動方法について、個人・家族、集団、地域を捉える視点を理解し、活動の場の特性と活動方法を関連させて考えることを学ぶ。支援技術、施策へと発展させるために必要な理論・理念・方法を理解できる。災害時の行政の機能および保健師の役割について理解できる。
到達目標	1. 地域の健康問題解決のための社会資源について基本的な知識を身につけることができる。 2. 公衆衛生看護活動についてアセスメントから立案、実施、評価まで一連の流れに沿って理解することができる。 3. 災害時の行政の機能および保健師の役割について理解することができる。
学位授与方針との関連	看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。 地域の健康課題を明確にし、その課題解決に向けて計画・立案する方法を理解している。 公衆衛生看護の対象となる個人・家族・集団・組織に対して、対象別の実践方法を理解している。

## 授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	野崎 志津	公衆衛生看護活動の展開	公衆衛生看護活動の具体的な展開方法（講義）・実習地における保健師活動（グループワーク）
第2回	野崎 志津	公衆衛生看護活動の実際(1)	地域の健康問題解決のための方法および社会資源について（講義・グループワーク）
第3回	野崎 志津	災害時における保健活動(1)	災害時における保健師活動の実際（講義）
第4回	野崎 志津	災害時における保健活動(2)	災害サイクルの各期における保健師活動（講義）
第5回	野崎 志津	災害時の組織的対応	発災直後の組織的対応と避難所運営（講義・演習）
第6回	野崎 志津	平常時における災害対策	避難行動要支援者への支援及び平常時における災害対策（講義・演習）
第7回	野崎 志津	公衆衛生看護活動の実際(2)	効果的な保健活動の立案と保健師の役割（講義）
第8回	野崎 志津	公衆衛生看護における活動理論	公衆衛生看護を展開する上で活用できる理論（講義・演習）

授業時間外の学習	事前にテキストで予習し、講義内容の理解を進めること。グループワークでの演習内容を整理し、理解を深めること。実習地域で行われている公衆衛生看護活動や実習地域の社会資源について調べておくこと。
目安時間	各回 1 時間程度
教科書	「標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論」 医学書院
参考文献等	授業時間内に適宜紹介
成績評価の方法	定期試験(筆記試験)80% 演習の参加状況や授業態度20%
授業に関する実務経験	行政保健師として勤務していた経験をもとに、公衆衛生看護活動の実際や災害時の保健師活動等について指導する。
オフィスアワー	火曜日12:00~13:00

[ウインドウを閉じる](#)

## シラバス参照

講義名	成人保健指導		
講義開講時期	前期	講義区分	講義
基準単位数	1	時間	15.00
履修要件			
配当年次・時期	1年次・前期		
必修/選択	必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
助教	◎ 山下 裕子	専攻科

授業の概要 (150文字程度)	成人期の特徴と役割、生活と健康障害との関連を学び、健康増進と生活習慣病対策を中心に、国の動向及び地域における保健活動について理解を深める。また、感染症、特に結核、HIV感染症、B・C型肝炎について最近の動向と対策を学ぶ。がん予防についての地域の取り組みや治療の動向と施策を習得する。さらに、地域で生活する難病療養者の生活を理解し、難病対策と地域保健活動について学ぶ。
到達目標	1. 成人保健の動向や生活習慣病対策、保健活動について理解することができる。 2. 感染症の最近の動向や結核の管理体系、保健活動について理解することができる。 3. 難病療養者の生活、難病対策と保健活動について理解することができる。
学位授与方針との関連	看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。 公衆衛生看護の対象となる個人・家族・集団・組織に対して、対象別の実践方法を理解している。

授業計画表			
回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	山下 裕子	感染症保健活動①	感染症の最近の動向と公衆衛生看護活動（講義）
第2回	山下 裕子	感染症保健活動②	性感染症における公衆衛生看護活動（講義）
第3回	山下 裕子	感染症保健活動③	結核の管理体系と公衆衛生看護活動（講義）
第4回	山下 裕子	難病保健活動	難病保健の動向と施策（講義）
第5回	山下 裕子	成人保健の動向	成人保健施策・健康日本21（講義）
第6回	山下 裕子	生活習慣病と保健指導①	特定健康診査・特定保健指導（講義）
第7回	山下 裕子	生活習慣病と保健指導②	がんの予防と対策（講義）
第8回	山下 裕子	生活習慣病と保健指導③	インスリン抵抗性と生活習慣病（講義）
授業時間外の学習	結核についてのレポートを作成すること。また、授業時間内に小テストを行う。 授業の予習・復習を行うこと。		
目安時間	30時間		
教科書	「保健学講座3 公衆衛生看護活動展開論」メヂカルフレンド社 「国民衛生の動向 2021/2022」厚生労働統計協会 「2018年改訂 沖田くんのタイムスリップ」結核予防会		
参考文献等	なし		
成績評価の方法	定期試験（70%）、レポート（15%）、平常点・小テスト（15%） 定期試験後の個人の解答用紙は返却しないが、各自で復習すること。 レポートは、採点後次回講義で解説する。		
授業に関する実務経験	保健師として行政で勤務していた経験を基に成人保健・感染症保健・難病保健について指導する。		
オフィスアワー	月曜日 16:10～17:00		

[ウインドウを閉じる](#)

## シラバス参照

講義名	健康教育論Ⅱ		
講義開講時期	後期	講義区分	講義
基準単位数	1	時間	15.00
履修要件			
配当年次・時期	1年次・後期		
必修/選択	必修		

## 担当教員

職種	氏名	所属
助教	◎ 梶本 和美	第一看護学科
講師	丸山 睦	専攻科
助教	野崎 志津	専攻科
助教	山下 裕子	専攻科

授業の概要(150文字程度)	健康教育Ⅰで学んだことをもとに、地域（公衆衛生看護実習Ⅱ）で健康教育を展開するための応用力・創造性を育み、地位のニーズに適応した健康教育計画作成と媒体・シナリオ作成を学ぶ。また、実際に地域で実施した健康教育の評価をP D C Aサイクルの視点で評価する。さらに、健康教育に活かせる理論を習得し、地域での応用方法について考える力を養う。
到達目標	1. 健康教育について、対象の健康問題と関連させて企画し、実践・評価する能力を身につけることができる。 2. 臨地実習の場でグループとして健康教育を実践することができる。
学位授与方針との関連	看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を身につけている。 地域の健康課題を明確にし、その課題解決に向けて計画・立案する方法を理解している。

## 授業計画表

回	担当教員	授業テーマ	授業内容・方法
第1回	梶本 和美	地域に応じた健康教育計画書の作成	計画書の立案（講義・演習）
第2回	梶本 和美	地域に応じた健康教育の実践①	健康教育の準備（演習）
第3回	梶本 和美	地域に応じた健康教育の実践②	健康教育の準備（演習）
第4回	梶本 和美	健康教育の実践発表（地域実習）	健康教育の発表（発表）
第5回	梶本 和美	健康教育の実践発表（地域実習）	健康教育の発表（発表）
第6回	梶本 和美	健康教育の評価	グループワーク（演習）
第7回	梶本 和美	健康教育に活かせる理論①	健康教育に活かせる理論（講義・演習）
第8回	梶本 和美	健康教育に活かせる理論②	健康教育に活かせる理論（講義）

授業時間外の学習	グループで議論を深め、実践にいかすこと。
目安時間	30時間程度
教科書	「標準保健師講座2 公衆衛生看護技術」医学書院
参考文献等	特になし
成績評価の方法	定期試験（70%）、実践評価（30%） 定期試験後の個人の解答用紙は返却しないが、各自で復習すること。
授業に関する実務経験	保健師として行政で勤務した経験を基に、健康教育の理論と実践について指導する。
オフィスアワー	火曜日16:10～17:00

[ウインドウを閉じる](#)